

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日：令和 5 年 3 月 23 日

公表：令和 5 年 3 月 28 日

事業所名 さくら総合発達支援センター ホープ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			学年が上がるにつれて、広く動けるようなスペースが今後は必要。
	2	職員の配置数は適切である	○		動きのある児童が多いため、必要人数以上配置するよう心掛けている。	本年度は例年以上に職員の入れ変わりが多く、一年通して職員を必要人数以上の配置が難しかった。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		段差の排除や手すり等今後必要に応じて対応していく必要がある。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している		○		勤務形態関係なく全体でミーティングを行える体制作りが必要。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		毎年HPで公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		今後外部からの評価体制を設ける必要がある。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		オンライン研修を活用し、研修の幅を広げている。	全職員が研修に参加できる体制作りが必要。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		計画等児童の情報を一つにまとめ、支援中でも見やすい環境作りを実施。	引き続き全職員への周知を徹底していく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			引き続き全職員への周知を徹底していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている		○		チームで立案を立てる時間の確保が必要。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		季節に合わせた制作等で固定化しないよう工夫している。	活動の種類が数多くないので、今後増やしていきたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○		普段と異なる活動は実施できているので、今後は細やかな課題設定を設定するよう努めていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別支援計画に記載されている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		出勤時に確認している。	全職員で行う時間の確保が課題。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		出勤時に確認している。	全職員で行う時間の確保が課題。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		毎日担当職員が記録をとっている。	全職員での話し合いの場を設けていきたい。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		最低6か月に1度は実施できている。	

	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている		○		今後は組み合わせた支援を実施できるよう努めていく。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者や現場職員が参加している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		必要児童に対して実施している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		必要児童に対して実施している。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		必要児童に対して実施している。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		学校卒業した児童がいないため実施無し。今後必要に応じて実施できる体制作りをしていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		今後検討していく。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時や電話等で必要に応じて話し合い、共通理解になるよう努めている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		ペアレントトレーニングは実施できていないが、その都度事業所での対応方法について共有するように努めている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に実施している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		ラインや電話等、気軽に相談できるよう努めている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		今後検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		SNSを活用し、発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		その家庭に合わせた連絡手段を使い分けている。	

	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		送迎車に避難所情報をのせ、送迎中の対応も明確にしている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		地震・火事・水害に分け避難訓練を年に数回実施できている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		最低年に一度は実施している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		個別支援計画に記載している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			